

白血球が新型治療で

強制変異剤に嬲られるっ!!



これは、
運命が違う側に転がった場合の
世界線の物語。

この世界では、
治療効果が出るまで
身体は待っていていられなかった

幸せに至らなかつた。
黒い結末の物語である。

第二期治療の開始

同素体治療の即効性と確実性が担保された方式。第一期治療と使用する機器が共通であるため、多くの場合、第一期治療を実施し、効果が病状に合わない場合に治療を切り替える。

Y-10 免疫細胞種胚

患者の細胞から培養された種胚植え付け用細胞。免疫治療機器の全エリアへのアクセス権を持ち、夫婦細胞に対して上位命令権がある。これは対象の細胞壁を除去する際に使用する。

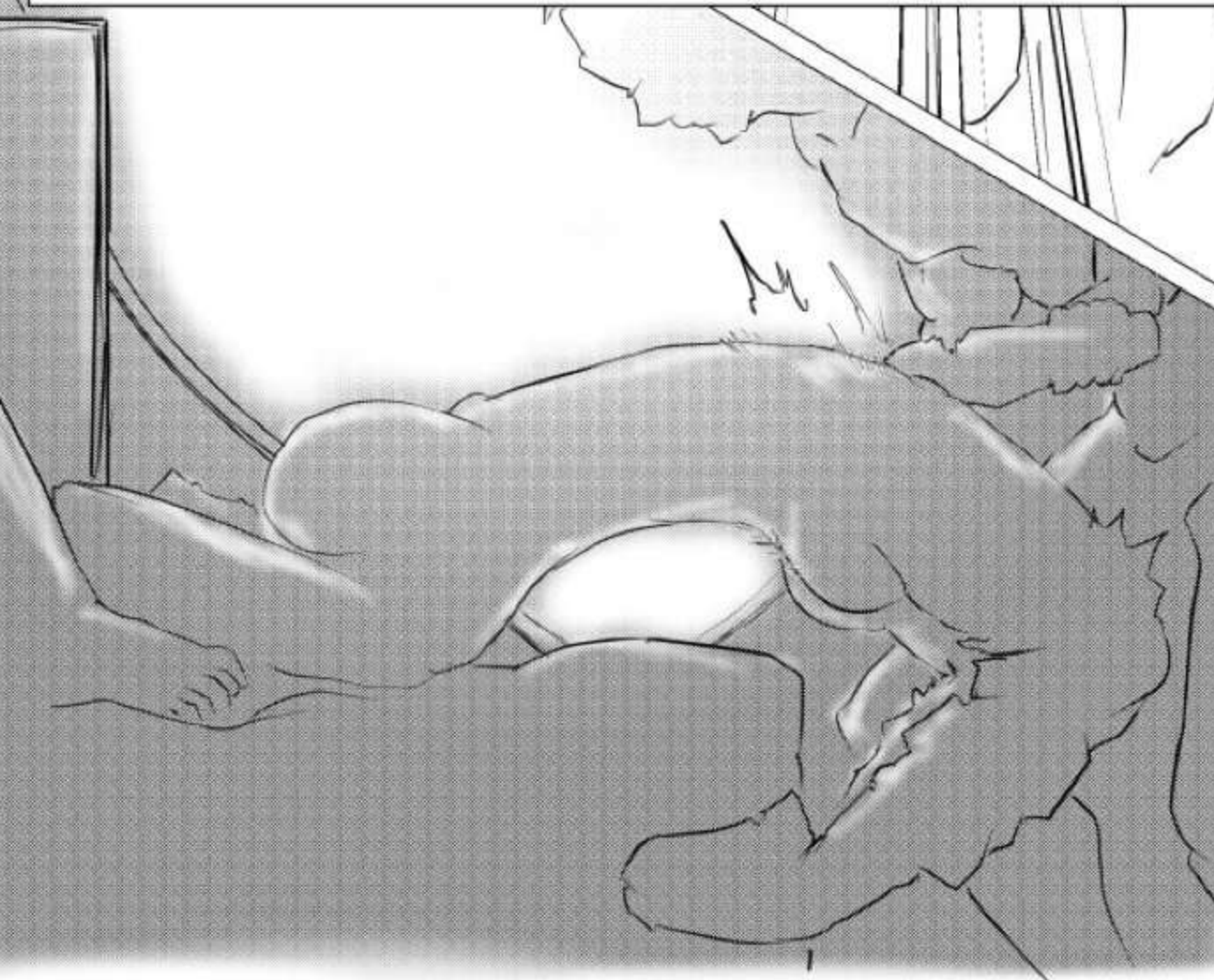


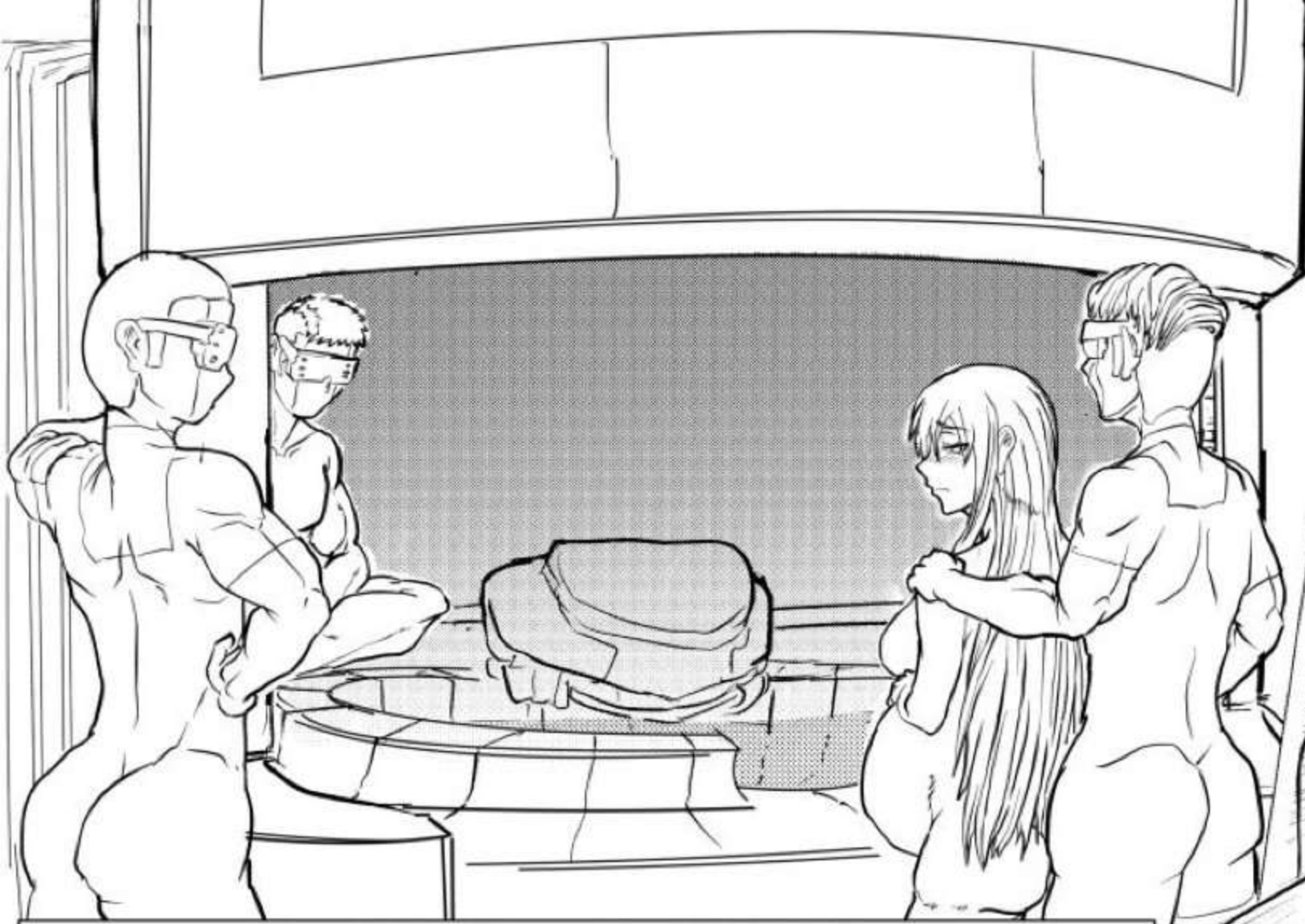


母胎細胞の性能情報採取

投与されたY-10は培養区画にアクセスし、培養区画内の仕切りを変更して雄フラグ細胞や一親等細胞群を隔離する。同時に雌フラグ細胞の細胞壁を排除し、細胞核へアクセスして細胞性能情報を吸い上げを行う。

この間、上位命令権にて雄フラグ細胞の挙動は抑制される。





免疫細胞の培養準備

第一期治療から治療を切り替えた場合、雌フラグ細胞内には免疫細胞が育成中であるケースが多い。調整の邪魔となることから、Y-10側から刺激を与え、強制的に成長、成熟、排出させる事で母胎を初期化する。





第二期治療への切り替え

排出された免疫細胞は培養区間の外へすぐに送られる。
一方で雌フラグ細胞には多数のY-10が群がり始める。
即応性を上げるために培養区間内に侵入でき、
治療の切り替えが迅速に始まる。



挿入口拡張反応

第二期治療において最初に発生する反応
雌フラグ細胞から免疫細胞が排出された時点から、
排出口が柔軟性を保持してる間に、Y-10の種胚挿入
管挿入して形状に合わせさせる反応である。
※Y-10の挿入管は、雌フラグ細胞の元となった細胞
の種類を問わず対応できる様、極めて大型である。



Y-10従属反応刷り込み

排出口拡張を含め、第二期治療用の母胎とするため、雌フラグ細胞への調整は長期間に及ぶ。培養区間内で複数のY-10に拘束された状態で書き換えが進むため、母胎は長時間滞在することになる。

なお、培養区間内には夫婦細胞のペアが一親等細胞群を形成する為に残るが、雌フラグ細胞の処置を止める事はできない

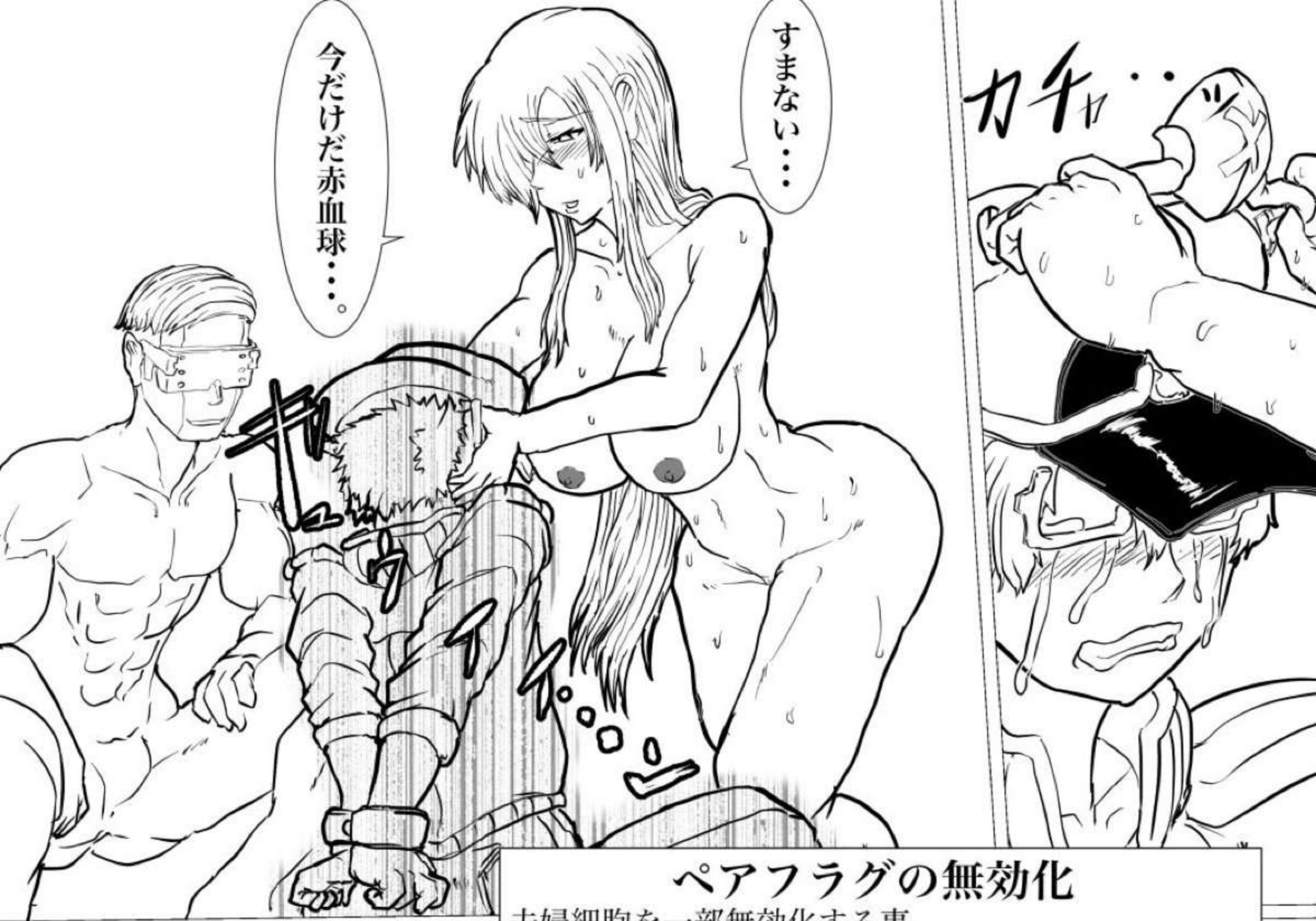




強制従順反応

Y-10による初回胚植え付けの際に発生する反応。
塗布・注入される薬液(wakarase-XI)によって、強制的にY-10への従順反応を引き起こさせたもの。
これはY-10の胚植え付け管が雄フラグ細胞よりも大型であるため、雌フラグ細胞側が受け入れられるように、細胞を軟化させる意図もある。





ペアフラグの無効化

夫婦細胞を一部無効化する事。
培養区画にY-10をアクセスし易くするため、一時的に雄フラグ細胞側の婚姻フラグ登録をマスキングする。

雄フラグ細胞は雌フラグ細胞へ杯植え付けが出来なくなるが、婚姻フラグ自体は有効であるため、離脱はせず栄養素の調達のみが役割となる。



種胚生育評価反応

Y-10が種胚の初回植え付けを行った雌フラグ細胞の細胞内の免疫細胞が排出時期に入った際に、周囲を回遊する反応。雌フラグ細胞の細胞壁を、命令権によって一時的に取り払い、Y-10による発育評価が行われている。

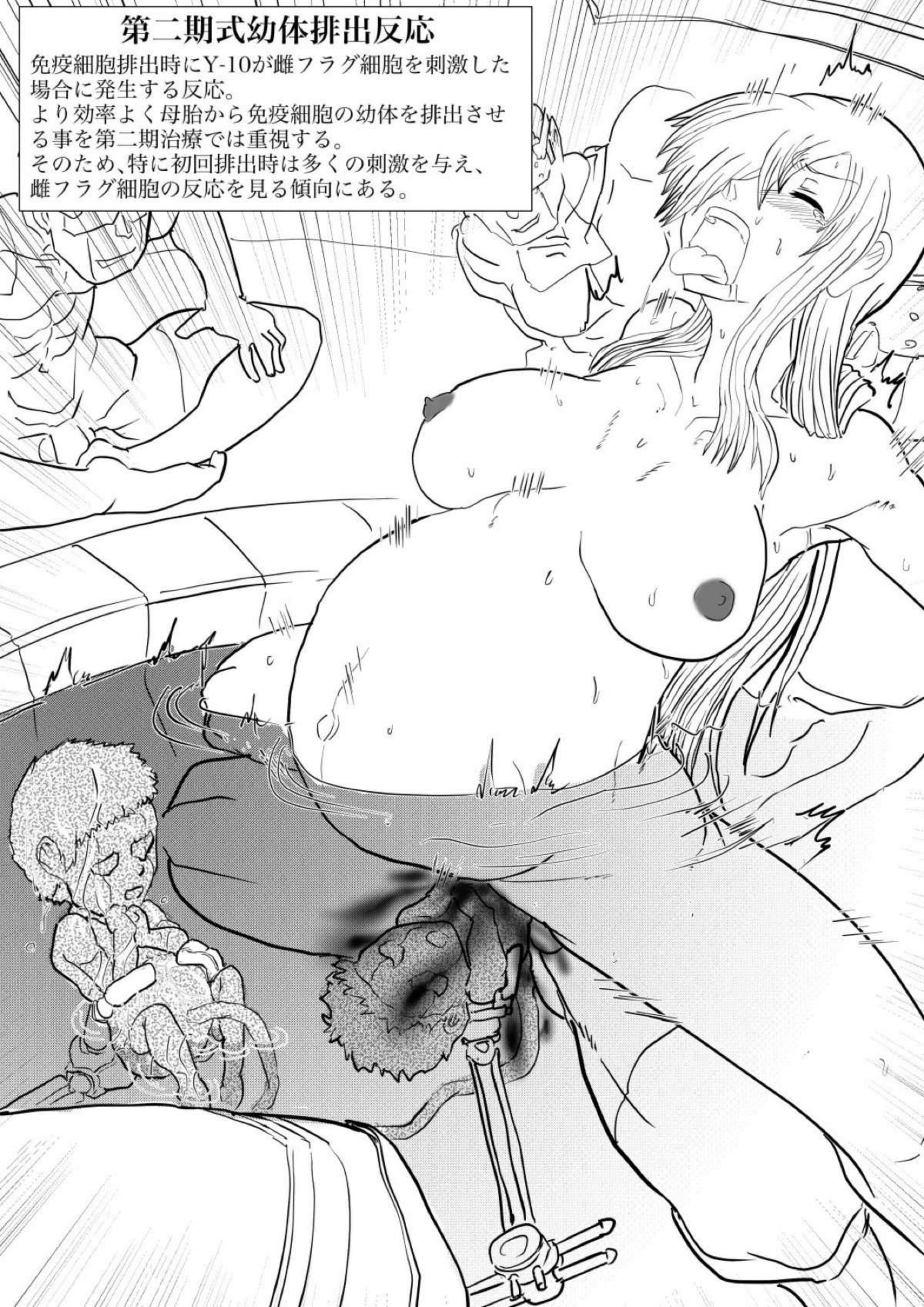


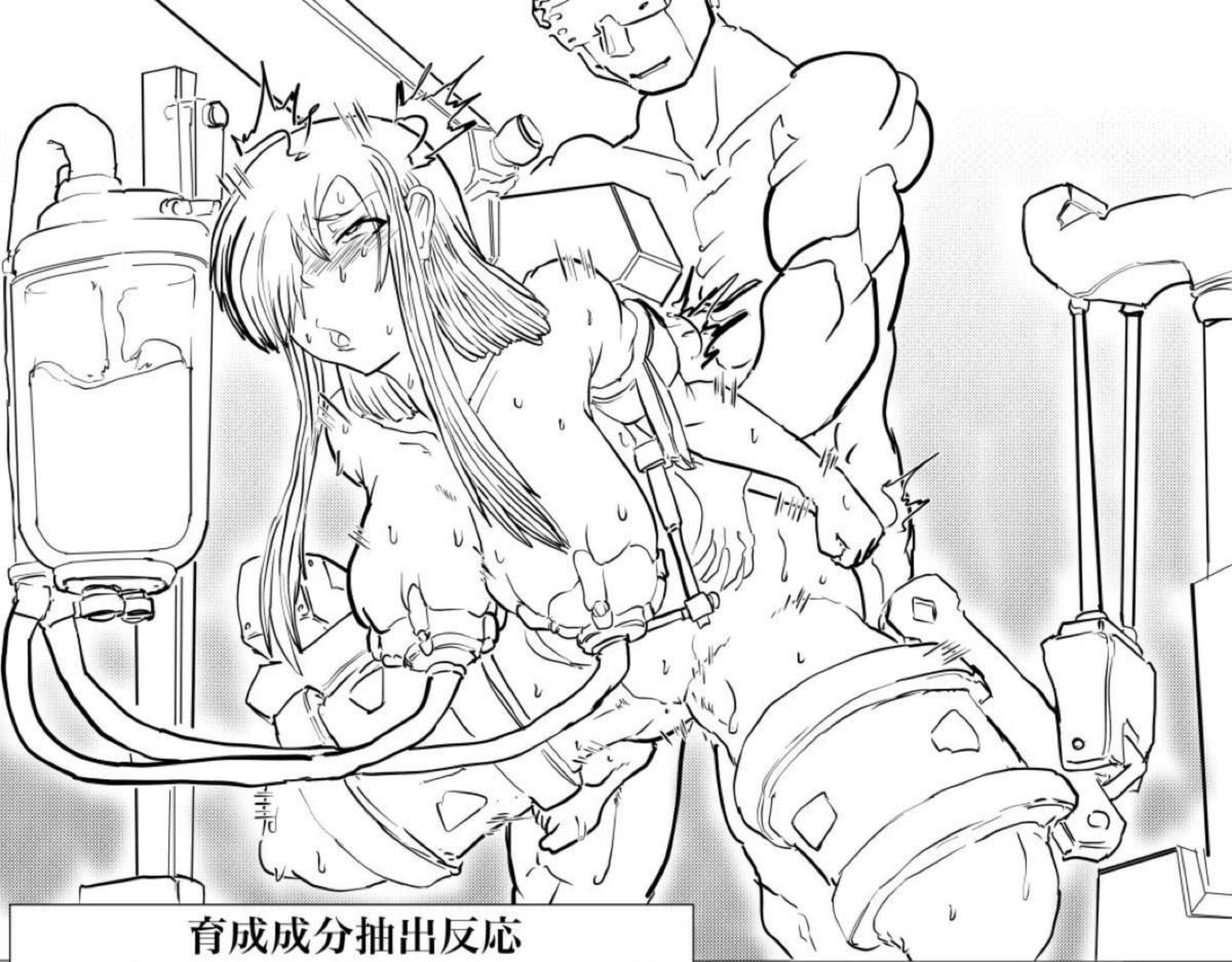
第二期式幼体排出反応

免疫細胞排出時にY-10が雌フラグ細胞を刺激した場合に発生する反応。

より効率よく母胎から免疫細胞の幼体を排出させる事を第二期治療では重視する。

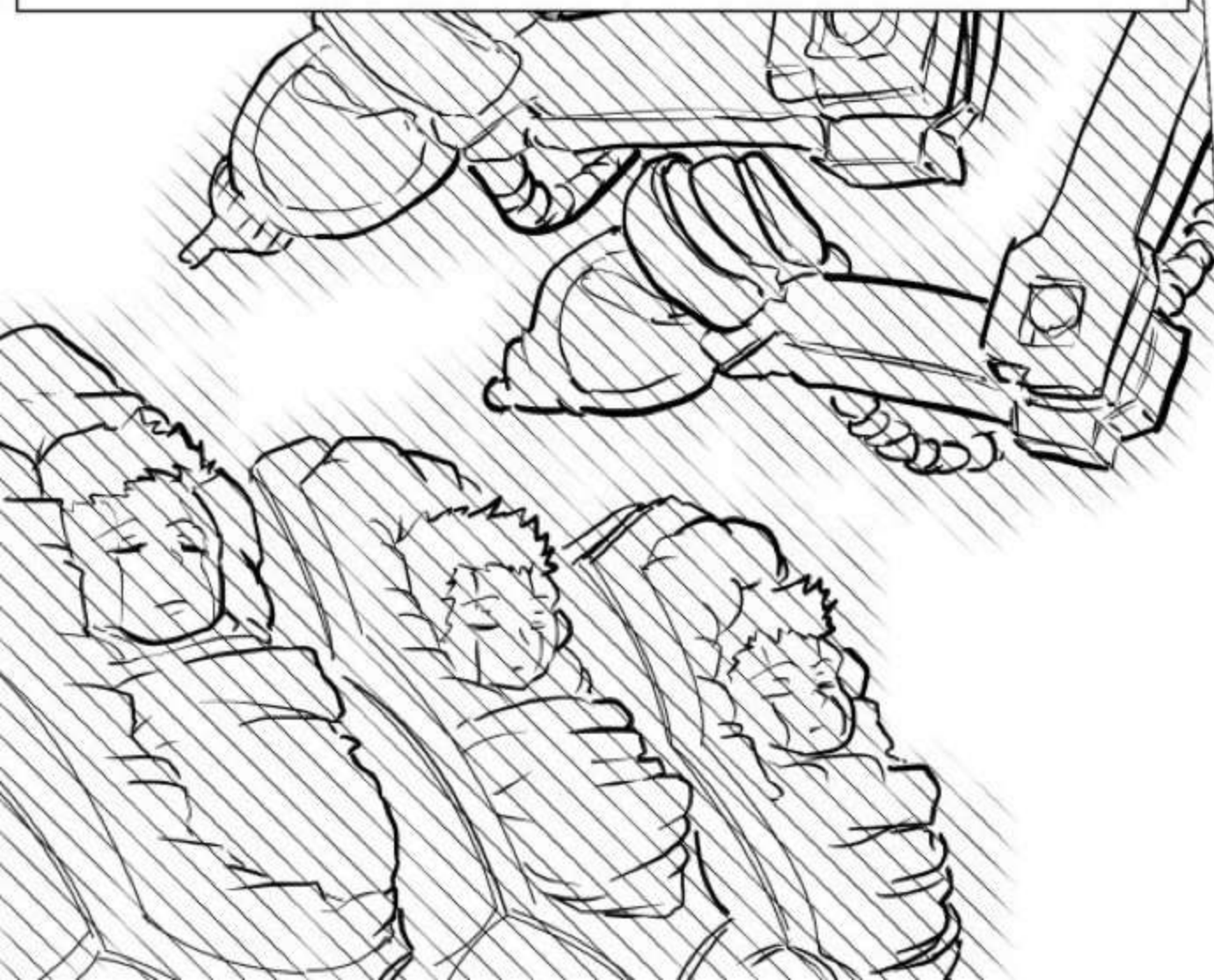
そのため、特に初回排出時は多くの刺激を与え、雌フラグ細胞の反応を見る傾向にある。





育成成分抽出反応

雌フラグ細胞が幼体免疫細胞を育成するために分泌する成分を、予めY-10が採取する際の反応。第二期治療では免疫細胞の生成が最優先されるため、幼体免疫細胞への教育育成(育成物質供給など)を全てY-10側で代行する。

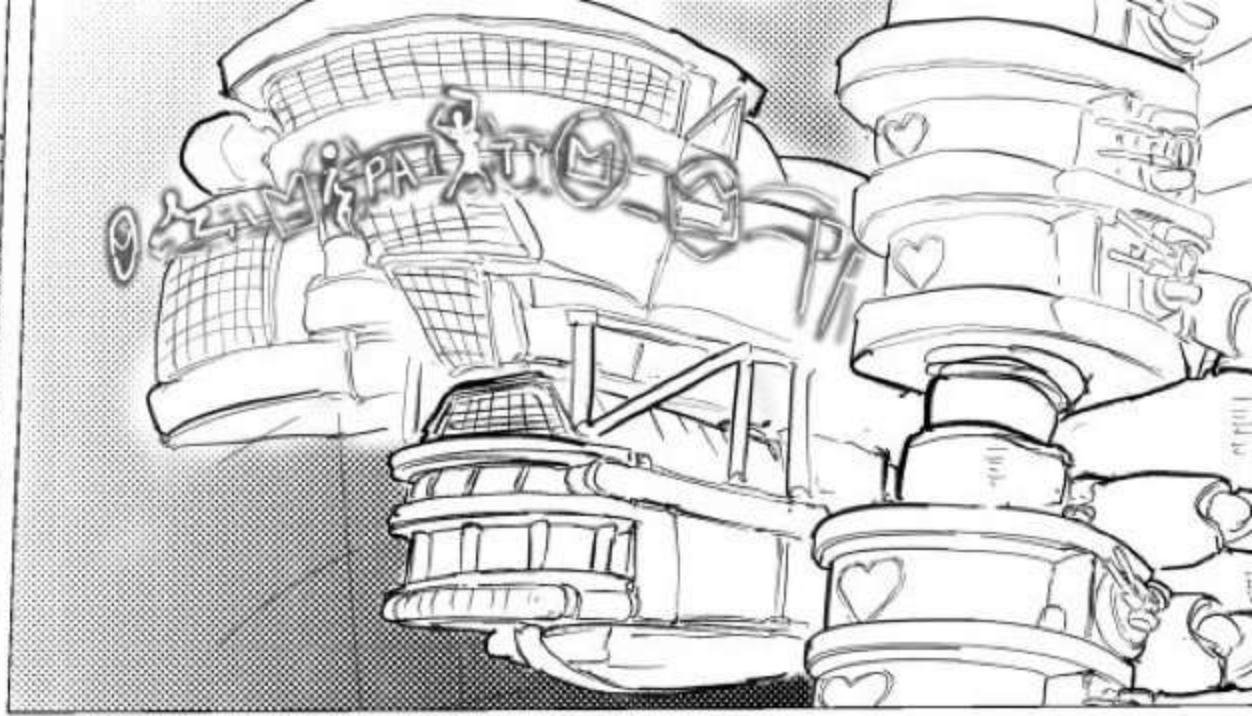
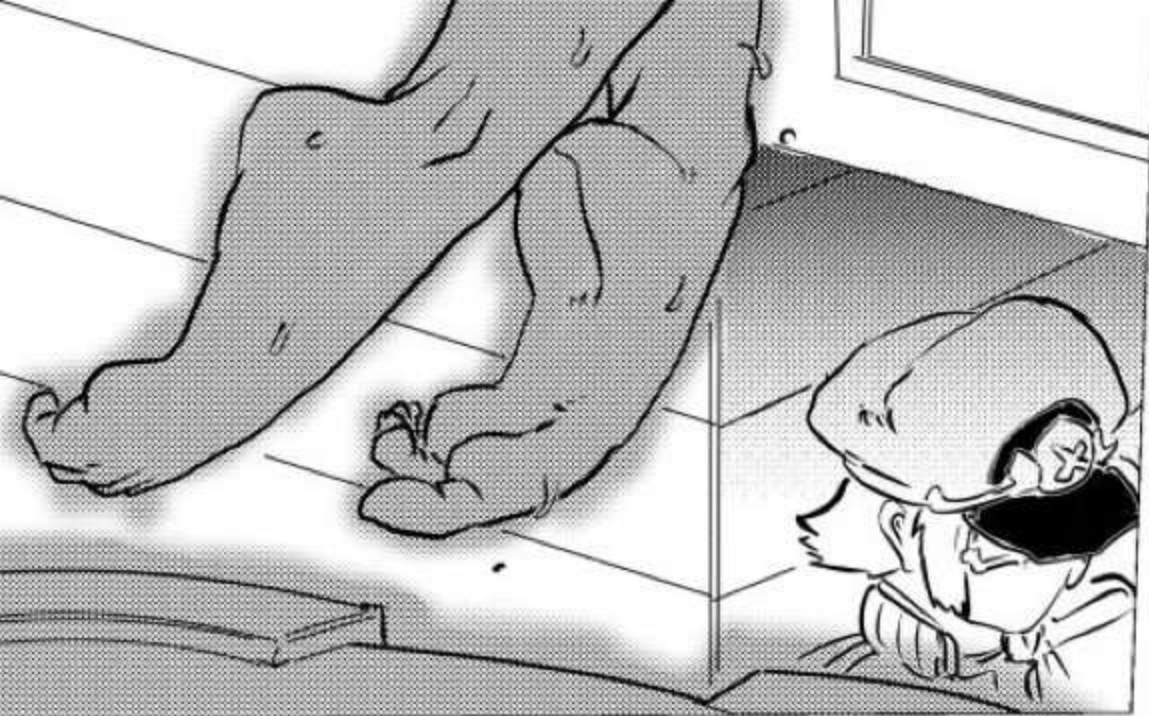


Frnフラグ確立済み細胞

第二期治療の準備が完了した雌フラグ細胞のこと。Y-10の優先命令権により再生成された細胞壁は、本来のそれと外見が異なる。Y-10の管理下にある事を識別し経過観察する目的と生成反応時に細胞壁脱着を容易にするためである。

この時点で雌フラグ細胞側はY-10への従順反応に染まっており、免疫機器内を移動する際はY-10の周囲を回遊する様になる。婚姻フラグを解消された雄フラグ細胞は、その背後を追従する様に移動する。





培養機器の構成変更

第二期治療では免疫細胞培養機器の構成が変更され「Yarisa-No.s」という機器構成となる。

外科手術による交流機構の増設が必要になる。

これは今まで夫婦細胞間で完結していた性能情報をY-10を經由して、各雌フラグ細胞内へ移植する場を用意する目的がある。

雌フラグ細胞へ複数のY-10が種胚を介して性能情報を植え、情報交換する状態を「乱行反応」と呼ぶ。



雌フラグ細胞の周知

乱行反応時に使用される種胚は、免疫細胞に分化するだけでなく、雌フラグ細胞の細胞核に細胞性能情報を書き込む性質をもつ。ここで書き込まれた細胞性能情報は、自動的に雌フラグ細胞内で生成・育成される免疫細胞に反映される。つまり、交流機構内で多くのY-10と結合した雌フラグ細胞は、その数だけ強化された免疫細胞を生成できるようになる。

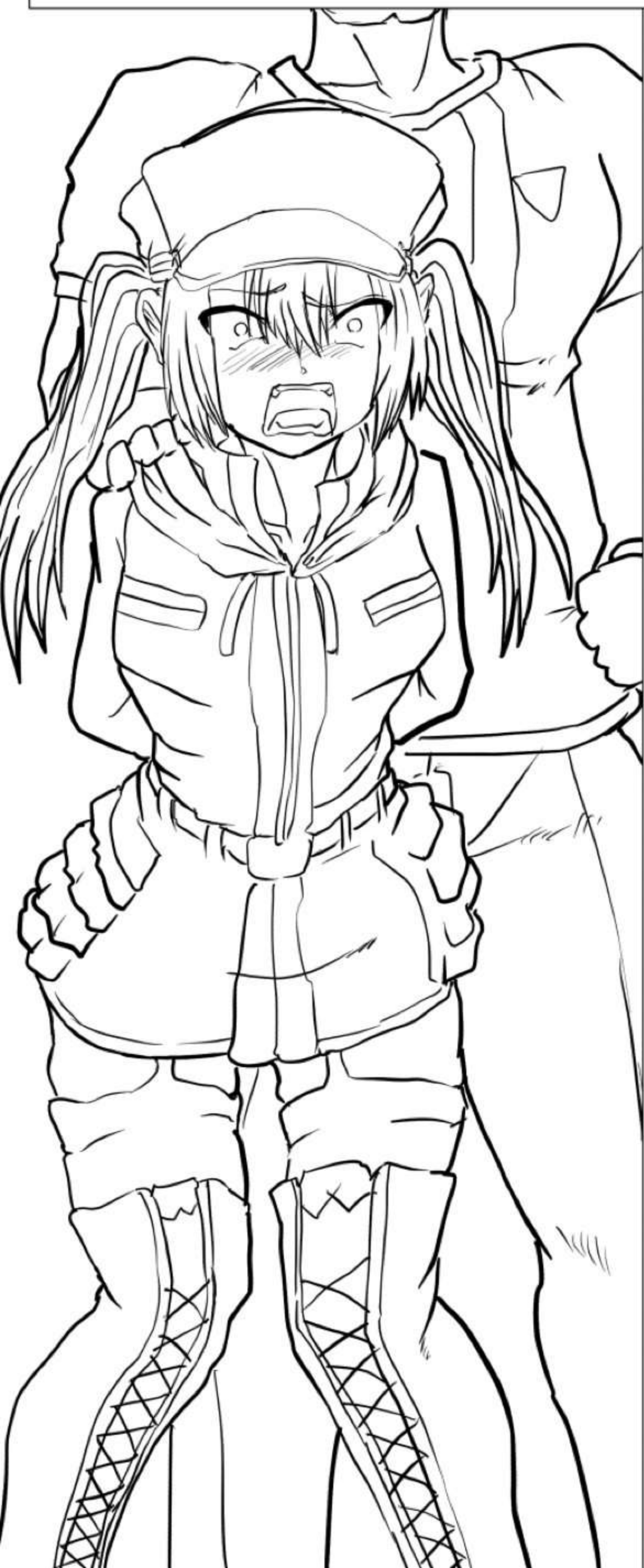
交流機構内での周知区画

乱行反応は、交流機構内に俗称「お立ち台」と呼ばれる周知区画で始まる。周知区画は交流機構全体に雌フラグ細胞の状態情報と直近で生成した免疫細胞の情報が伝わる設計であり、雌フラグ細胞の母胎情報の共有と、種胚の重複防止が主眼に置かれている。



Keep型雌フラグ細胞

培養区画へ追加される雌フラグ細胞を指す。
多くは先住の雌フラグ細胞の元細胞と同種の細胞が
選ばれ、全身回遊中の確保型Y-10によって捕獲され、
雌フラグのみをセットされ培養機器へ輸送される。



同フラグ格付け反応

雌フラグ細胞が追加された培養区画で最初に発生する反応のこと。

先住の雌フラグ細胞が、追加された雌フラグ細胞を拘束することで、細胞壁を解体し易くする反応のこと。

なお、本反応が発生した場合、そのままY-10からの種胚植え付け反応へ移行することが非常に多い。







それとも
見ていくか？

その辺
置いときな

……酸素の配給です

両方とも
中々お目にかかれない
明器つぷりだぜえ？



Y-10系免疫細胞の量産

免疫細胞を育成中である先住型／keep型雌フラグ細胞が機器の培養区画内に存在することを確認できて初めて、第二期免疫治療の導入が成功であると判断される。なお、この段階でも種胚挿入時／育成促進用刺激時に、雌フラグ細胞はY-10側の強制命令権が必要になる抵抗を示す場合が多い。



免疫細胞の排出方法の変化

第二期治療では効率を重視する排出方法が実施される。培養区画内にY-10も入り、雌フラグ細胞の細胞壁を刺激することで免疫細胞の排出を誘導する。この排出方法は雌フラグ細胞を著しく消耗させるが、同時にY-10への従属反応を促進するため、デメリットを意識した上で繰り返し実施される。

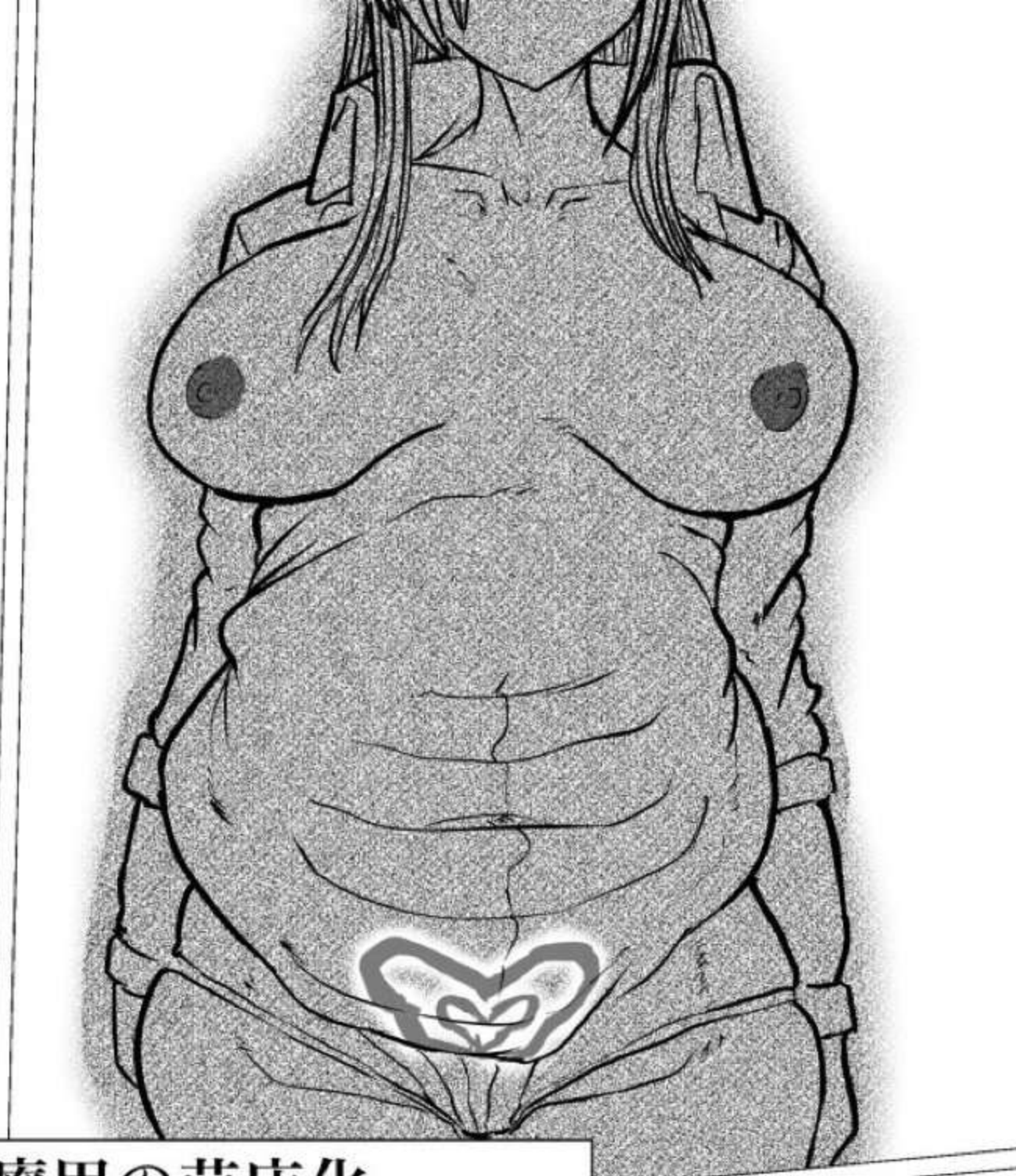
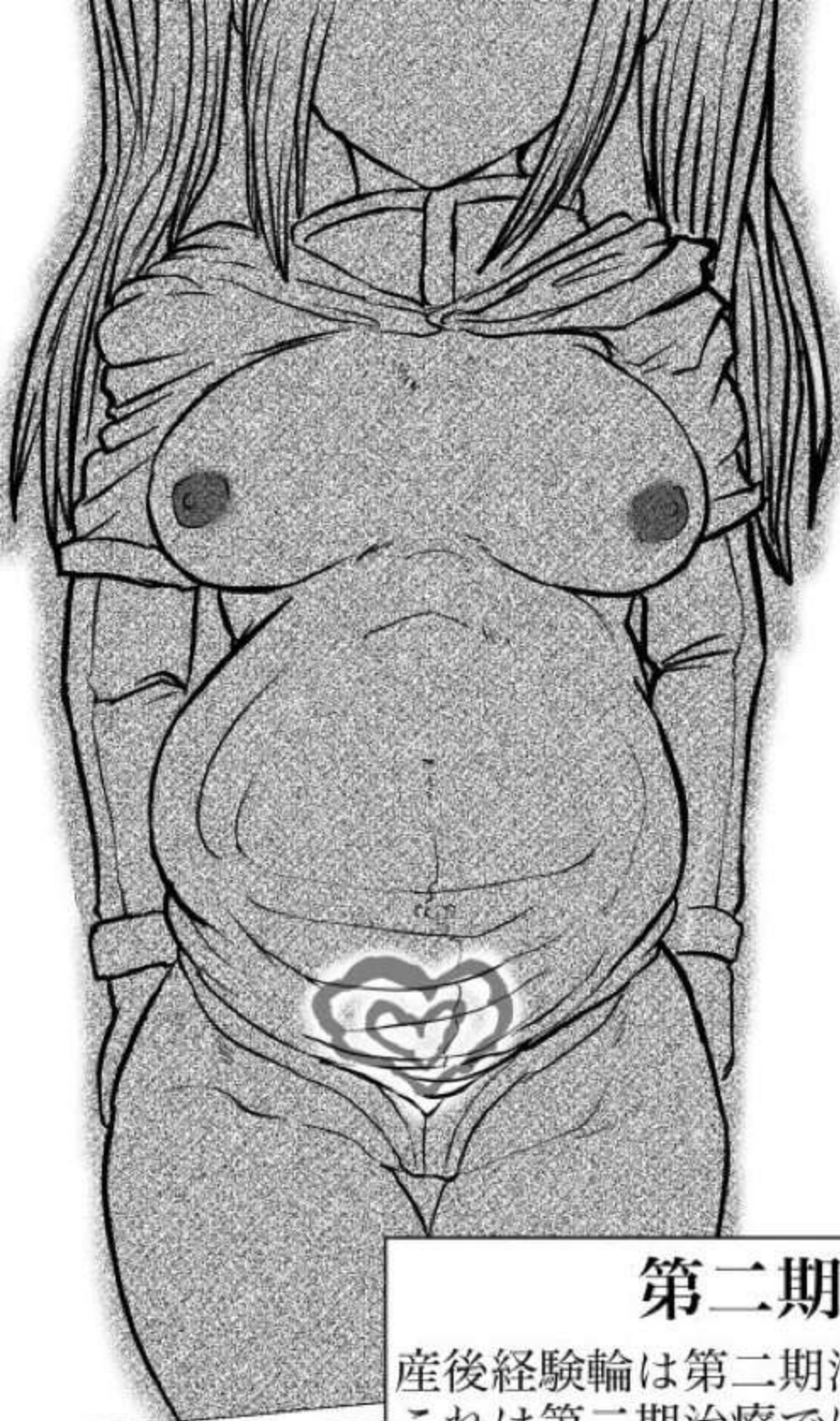




培養区画外の排出の実装

これまで免疫細胞の排出は、各夫婦細胞の培養機構内に限定されていたが、第二期治療では交流機構内に増設された区画でも実施される。
この際、複数の雌フラグ細胞が集められ、同時に刺激を与える事で排出をまとめて行わせる状態を「SYU-SAN-show反応」とよぶ。





第二期治療用の苗床化

産後経験輪は第二期治療において通過点となる。
これは第二期治療では生成される免疫細胞の数が格段に多く、かなり早い状態で発生する為である。
また、特色として従順反応を引き起こすための成分が該当の跡の上に模様として現れる。
これを「In紋」と呼び、量産期に入った証左となる。





Y-10後期型

大型化した種胚挿入管の他に、急速成熟剤挿入管が露出した量産期のY-10。同時に雌フラグ細胞へ挿入して注入する。

量産期の始まり

Y-10後期型への変異が一定数完了した時点で、雌フラグ細胞への植え付けが始まる。従来の結合反応とは比較にならないほどの負荷と時間が掛かるが、これは種胚の他に注入される急速成熟剤の膨張に備えて柔軟性を用意する為。なお、雌フラグ細胞側がある程度の従順反応を示していることも量産期の条件の一つとなる。



菌性雌フラグ細胞

種胚と急速成熟剤を保持した状態の雌フラグを指す。追加された急速成熟剤のため、注入直後から免疫細胞の排出時ほどに細胞壁が膨張している。種胚は成熟剤を吸収しながら成長する為、生育過程の細胞壁の膨張縮小は差し引きゼロとなり、細胞壁の外見は維持される。



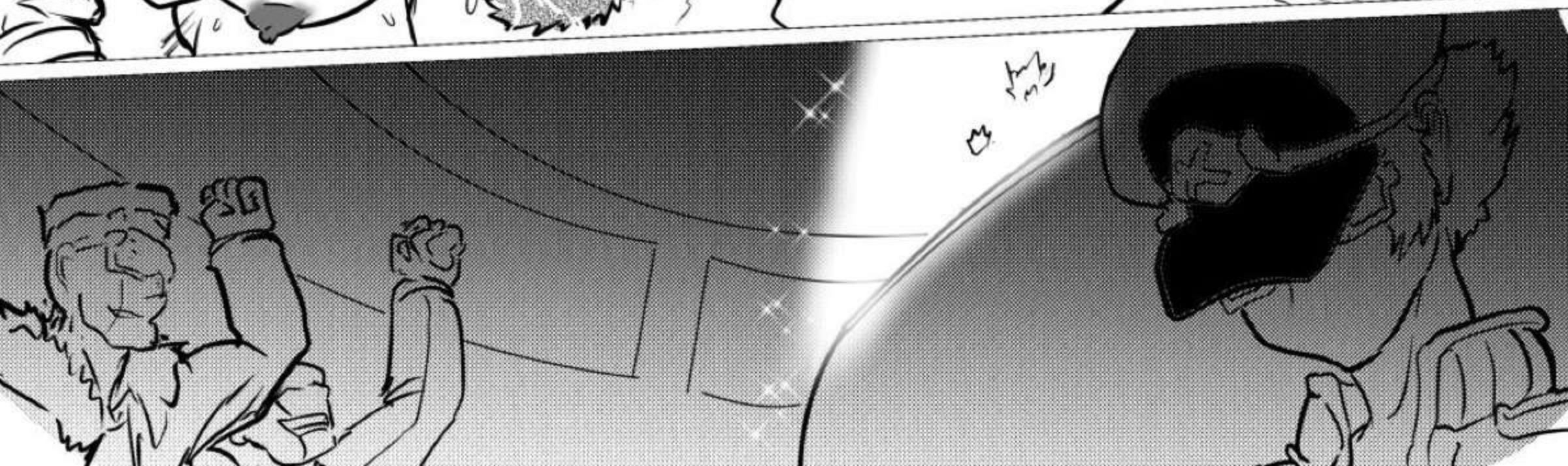
墮型一親等細胞群

ごく短期間ではあるが、第二期治療でも一親等細胞群を形成する場合がある。第二期のそれを「墮型」と呼ぶ。繭性雌フラグ細胞は、成熟剤により挙動が制限されており、機能指導は行われない。また、幼体免疫細胞は自らの母体である雌フラグ細胞を教材に、苗床となる細胞の扱いを学習する。



管理制一律排出

第二期治療の量産期において、基本的に免疫細胞の排出は交流機構内で実施される。交流機構の「お立ち台」に設置された特殊な振動機構と、Y-10からの刺激によって免疫細胞は排出される。また、機構での排出は、排出された幼体細胞に、より早い段階からY-10による情報共有をかける意図もある。





酸素の、
配給です……。



ああ、
すまない。
今受け取るよ



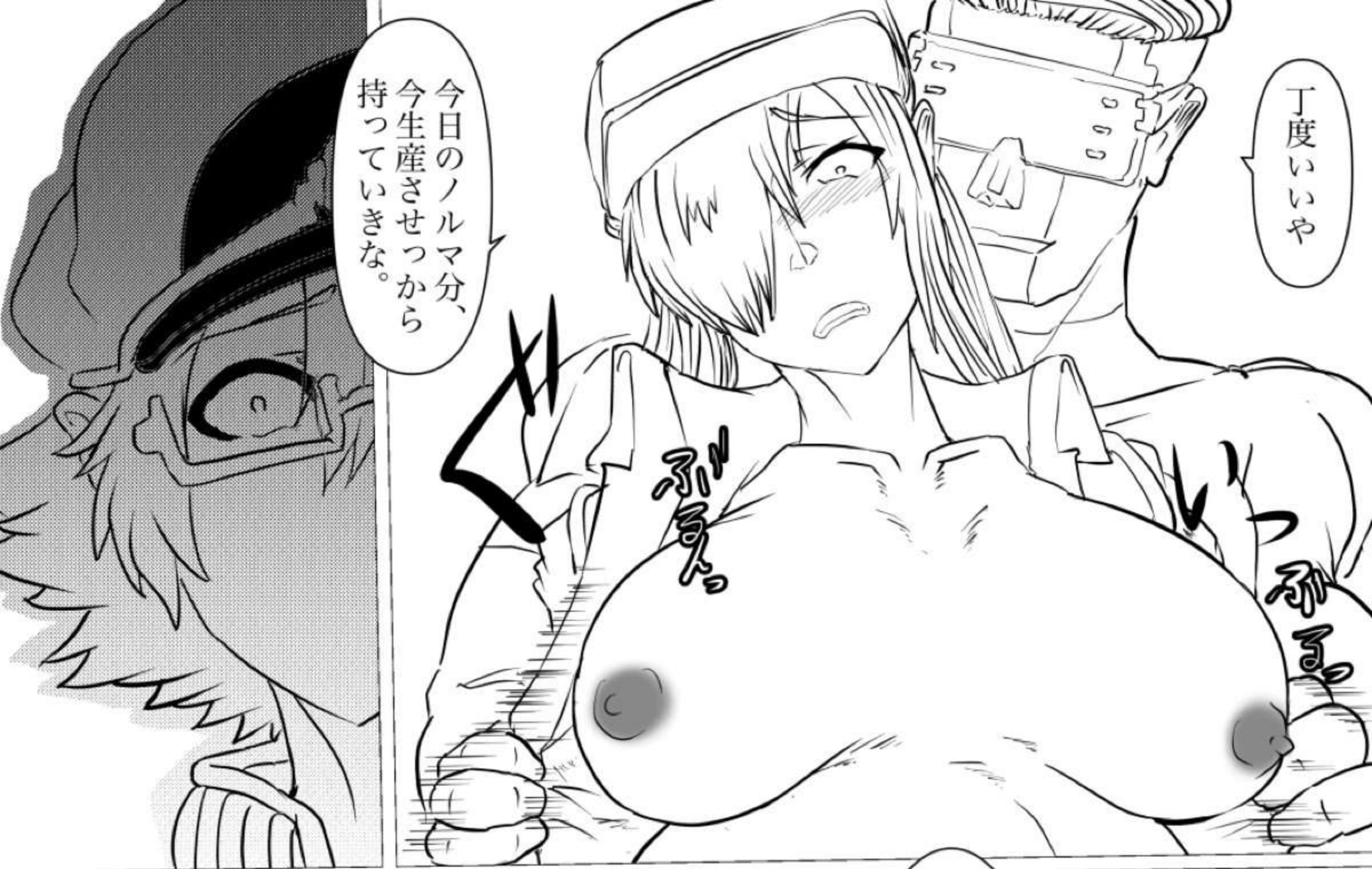
お前の元旦那の
赤血球じゃん

お？



丁度いいや

今日のノルマ分、
今生産させつから
持っていきな。



こんな...
身体にして...

まだ、足りないのか...!

おいおい
役目を果たしてる
だけだぜ?

抵抗してんじゃねーよ



まあ
弱点は全部
解析つてるしなあ？

やっぱオメーら
白血球は
皆んな同じだわ

どいつもこいつも、
両性雄フラグ化
孕まされた後は
これに弱いんだよなあ！

まっへ♡
来た♡
陣痛♡反応♡

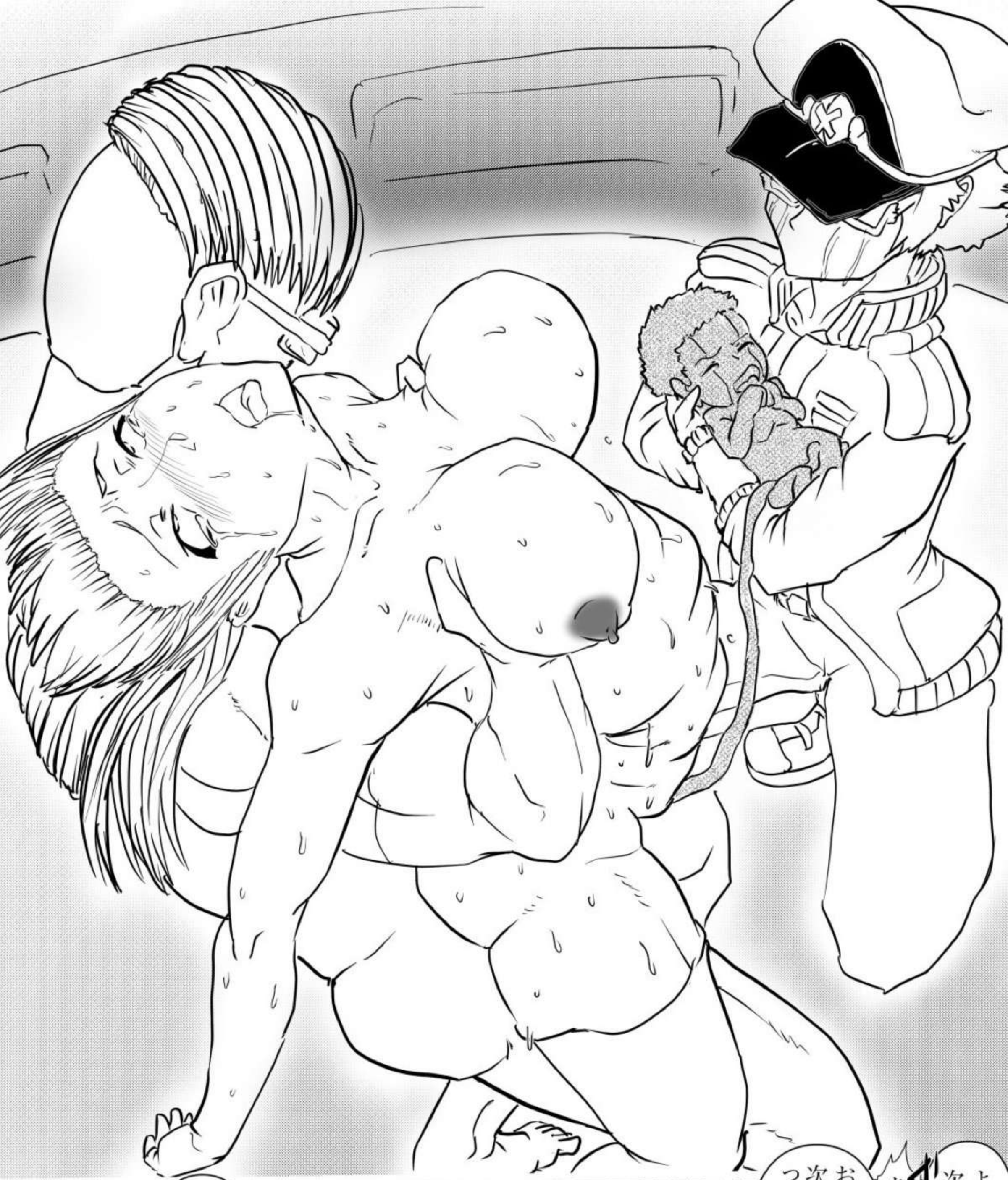
そうかい
じゃあ
さっさとひり出しな



せつけ……きゅ……

たの……む……





よし
次仕込むぞ

あ……!

おい
次は俺が仕込んでいい
って話だったろうが

おめー
前仕込んだろ

うるせえ
みんな一回は
こいつに
仕込んでんだよ





初期療法への再帰試験

NTR段階療法により免疫細胞の増加及び健康状態の回復が認められた場合、初期の負荷の少ない自然生成型へ、再度切り替えを試みる段階を指す。雄フラグ細胞がわのリングフラグを再有効化と、TR+Oの区画からの排除が具体的な内容である。



再帰試験の成功率

成功率は高くない。
これは、今日聖杯植え付けを行う都合上、TR-Oの植え付け器官が、雄フラグ側細胞の器官より大型であることに起因する。
雌フラグ側の細胞の苗床器官がTR-O用に慣れ、雄フラグの器官が到達できないなどが挙げられる。



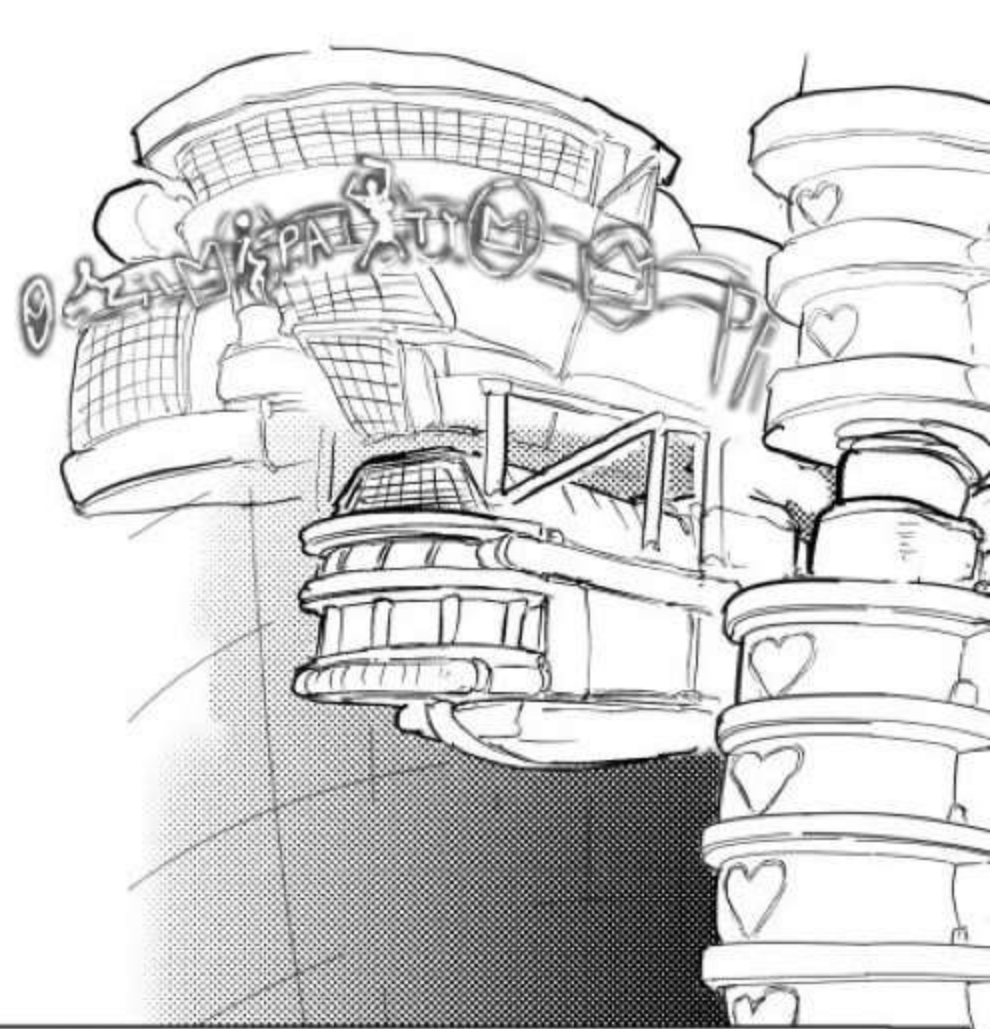
欲求不満性反応

再帰試験内にて、雌フラグ細胞側が初期環境への適用
適応不能(種胚植付け不全)を示す状態。
繭性雌フラグ細胞を経た場合、高確率で発生する。
夫婦細胞間の求愛反応自体は認められる場合、
主に種胚の植え付け時に、雌フラグ細胞側の細胞核へ
の刺激が不足することに起因するケースが多い。

IN紋による回収

本反応を示した雌フラグ細胞は、IN紋を形成くる成分
が作用し、従順反応を再度引き起こさせ、余暇リソース
としての回収段階に入る。





虜囚行動反応

再帰試験に入った雌フラグ細胞が、第二期治療用区画へ戻る反応全般を指し、再帰試験は失敗と判断される。多くはIN紋の成分が引き金となった反応だが、稀に作用する前に戻るケースもある。虜囚行動反応下の雌フラグ細胞は、自発的に細胞壁を可能な限り薄く変異させ、Y-10からの強制命令権を受け取りやすくする。





完全隷属性作用処置

虜囚行動反応を示した雌フラグ細胞へ、後期型Y-10から施される不可逆の従属反応を刷り込む措置。雌フラグ細胞の細胞壁を撤去および拘束し、二本の挿入管を使用して細胞核へアクセス後、絶対命令権を繰り返し刷り込む挙動を指す。従順反応が高レベルに達するまで繰り返す。





ずいぶん
気持ち良さそうな
すげえ声出すじゃねえか！

わあ♡
あ♡

あ♡

あ♡

わたっ♡

わたし♡

わたし♡
ひやまん、したんだっ♡

アクト



あ♡
我慢ね！

は♡
あ♡

あ♡
じゃあ
ご褒美だ

種付け、
楽しみなあ！

は♡
あ♡

あ♡

あ♡



すま...ない...

赤血球...



Negative Tailor realm

否定性領域調整(NTR)通知薬

再帰試験の結果として、交流機構内の第二期治療区画へ移動した雌フラグ細胞と、合流し強制命令権の下に置いたY-10から分泌される、夫婦細胞を変質させる成分。

主に雌フラグ細胞への種胚植え付け機能の永続無効化と、栄養運搬機能の専従細胞への変質を促す内容で構成される。

以後、夫婦細胞は直接接触することはなく、区画越しに養分の受け渡しが行われることとなる。





おーいいいねえ

じゃあ
おねだり
言ってみようか

い、意地悪だな...

もう、
お前たち専用
になったというのに...

姐さん、
もう諦めなよ

あ、ああ...

私たちを
働犯かせてください♡





第二期最終培養機構「KR-OK」

虜囚行動反応を示した雌フラグ細胞が移動する区画。本区画ではkeep型雌フラグ細胞が新たに追加され、個別区画へ格納、不特定多数のY-10から情報を受け取り、免疫細胞の生成に専従する。なお、常にY-10との結合反応に晒され続けるため、雌フラグ細胞から細胞壁がほとんど除去される。



Boss型Y-10の投入

Y-10の最上位モデルにして特殊仕様を指す。
繭性雌フラグ細胞として耐久性が確認された区画へ
順次投入され、最終工程に進めるかを確認する。
本モデルは挿入管を複数設置、大型化しており、この
確認工程で大半の雌フラグ細胞は負荷に耐えきれず
麻痺反応をしめす。





姐さん…

どうもすみません
BOSSさん。

ご足願ったつーのに
こーんなゴミみてーな
雌フラグ共しか居なくて

や、来た甲斐
あった



こいつ
気に入ったわ

あ、そいつ!
気付いちまい
ました?

分かってんじや
ねーかw

そりやあ
こんな…





めいめい
めいめい

めいめいめいめい

BOSS^俺型のが全部入る雌フラグ細胞なんてそうそう居ねーよ

ほらな?

こいつ俺のな

持って帰るわ

はーっ
おっおっおっ
おっおっおっ



あーあ
勿体ねえなあ

なかなか
居ねえレベルの
苗床だったのによお……

しゃーねーよ

ああ、くそ

VIP.ルームに
盗られるなんてよお



Vital Ideal Pioneer
最重要理想開拓(V I P)区画

第2期治療の最終培養区画。
区画名の通り、BOSSモデルは全てのY-10と交流し、
情報を収集/整理した免疫細胞の種胚を生成する。
その母体として選抜された雌フラグ細胞を使用する。
本区画内の繭性雌フラグ細胞は、拘束式成熟促進器に
繋がれ、常に免疫細胞を育成し続ける。



かか

かか

ん

ん

あー

ん

かか

ん

ん

ん

お、

陣痛反応きたな

ん

ん

免疫細胞の排出は拘束式成熟促進器によって強制的に行われる。
なお、従来の生成反応との違いとして、生成される免疫細胞は複数であることが前提となるため、促進機による強制排出が必須である。
母体となる細胞の負荷は非常に高い。





ほんと、コイツは
いい苗床だよなあ
産まれる奴あ
優秀な免疫細胞ばっか
だしよお

じゃあ
次のママになる
準備始めましょうね♡

もれち

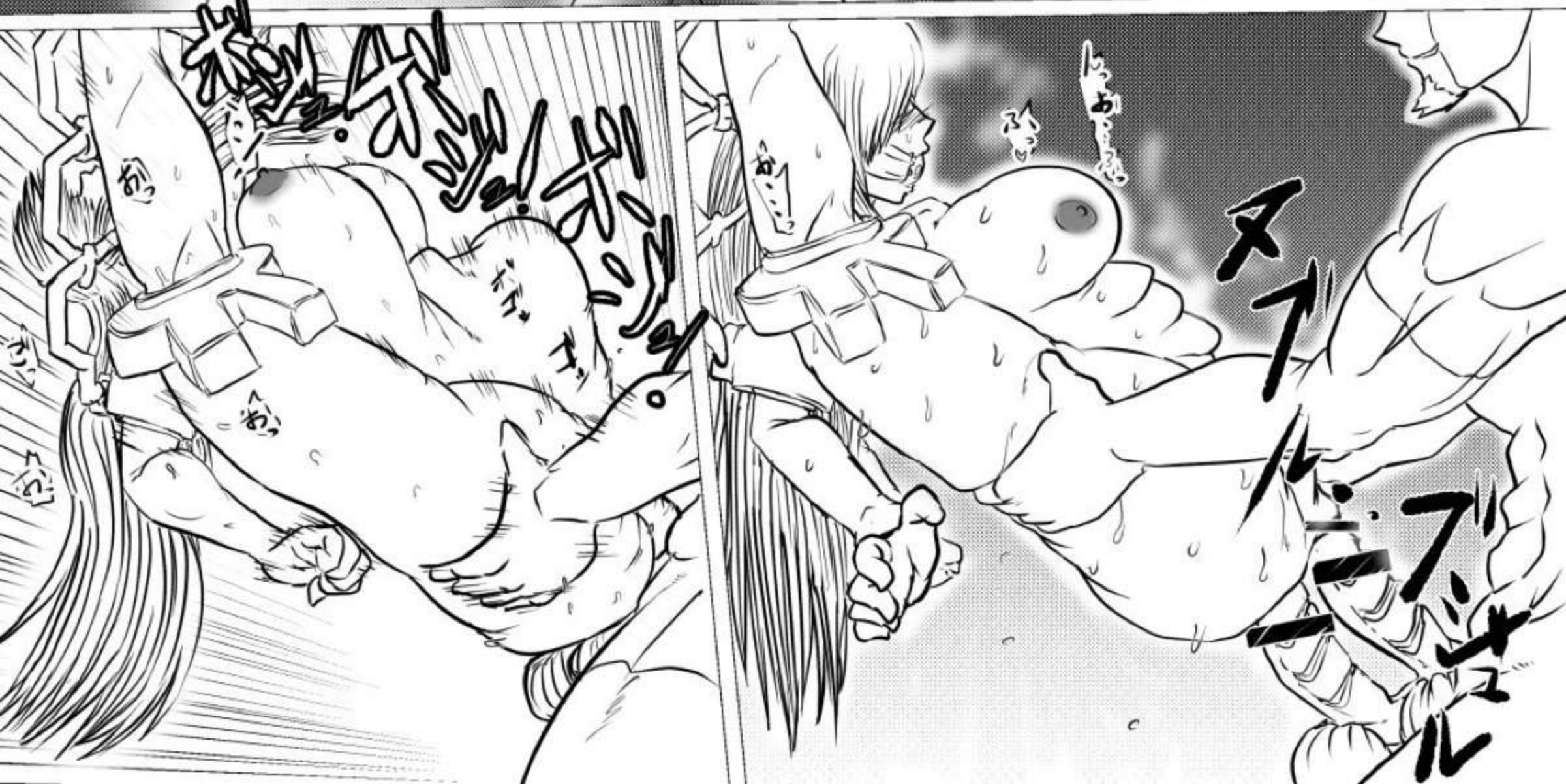
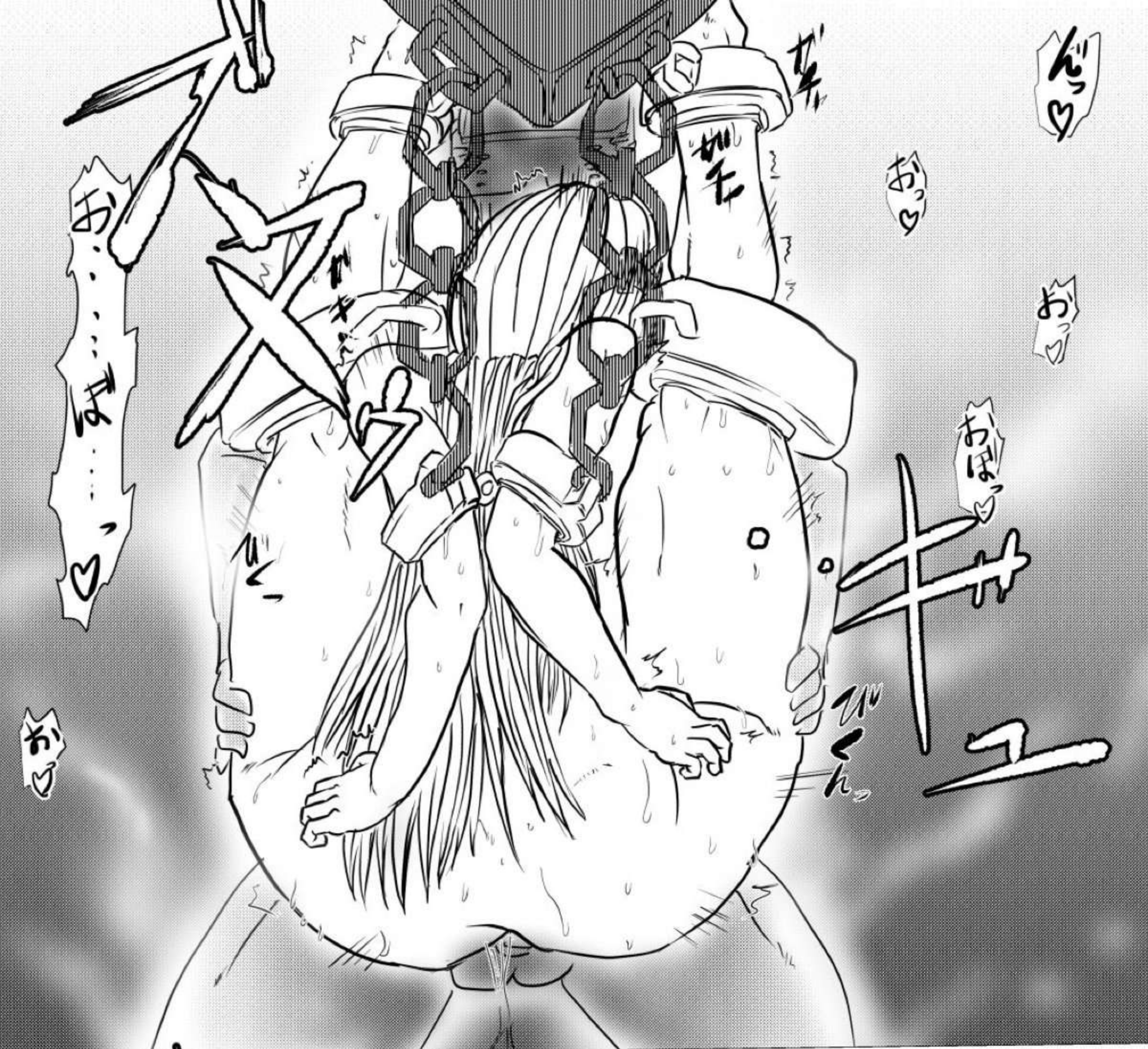
ぽた

ぽた

ア
ア
ア

免疫細胞の生成が完了次第、BOSS型Y-10による次世代の種胚を植え付けが開始される。

このサイクルを繰り返すことで、雌フラグ細胞を苗床とした免疫細胞生成器官として成立となる。同素体式免疫治療の第二期治療の最終型である。



赤血球

一つ、
約束してくれ

私に何か
あったりしたら、

君は

私にこたわるな

君は、
君しか出来ない
働きに戻ってくれ

そんな……!

そんな顔を
するな

君のいる身体を
守るためなら

私は
どんな風になっても
働き続けられるよ





また良い仔を
産んでくれよな？

苗床細胞さん♡

Ami



こうして今日もまた、
細胞達は
働いているのである。